

目	次
学術集会報告	日本家族性腫瘍学会 2013 年度総会議事録…………… n4
第 19 回日本家族性腫瘍学会学術集会開催報告…………… n1	会計報告 …………… n4
理事会・評議員会・総会報告	セミナー報告・お知らせ
日本家族性腫瘍学会 2013 年度第 1 回理事会議事録… n3	第 16 回家族性腫瘍セミナー報告…………… n5
日本家族性腫瘍学会 2013 年度評議員会議事録…………… n3	第 17 回家族性腫瘍セミナーのご案内…………… n5

集会・セミナー報告

第 19 回日本家族性腫瘍学会学術集会

学術集会会長：

内野 真也 (医療法人 野口記念会野口病院 外科部長)
三股 浩光 (大分大学医学部腎泌尿器外科学講座 教授)

第 19 回日本家族性腫瘍学会学術集会は、2013 年 7 月 26 日 (金)、27 日 (土) の両日、大分県別府市のビーコンプラザにて開催させていただきました。本学術集会は九州ではじめて開催ということになりました。連日の猛暑が続く中にも関わらず、予想を大きく上回る 300 名を超える参加者を賜りましたことを、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

お陰様で演題数は企画演題を含めて計 120 題となりました。発表会場は、口演が 2 会場で、示説は 1 会場で行われました (図 1)。今回の学術集会のメインテーマは、「家族性腫瘍の風、今ここから未来へ」とし、本学会がこれからの医学界においても新しい風を生みだし、その風から未来へ向けて大きな流れを作ってほしいという願いを込めたものでした。そのテーマに相応しく、特別講演には国立遺伝学研究所人類遺伝研究部門の井ノ上逸朗先生より「新型シークエンサーの家族性腫瘍への応用」、教育講演には、九州大学別府病院外科の三森功士先生より「家族性食道癌責任領域 17q25.1 に注目した新規食道癌の原因遺伝子同定へのアプローチ」、同じく教育講演として東京大学医

科学研究所臨床ゲノム腫瘍学分野の古川洋一先生に「次世代シークエンサーがもたらす近未来の医療」についてそれぞれ講演していただきました。

シンポジウムは、家族性大腸腫瘍 (家族性大腸腺腫症とリンチ症候群)、遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC)、多発性内分泌腫瘍症 (MEN) の 3 つのテーマをとりあげ、各分野の専門家により熱い議論がなされました。一般演題は口演 50 題、示説 34 題と過去最高の演題数であり、疾患別にみると、家族性大腸腫瘍、遺伝性乳がん卵巣がん、内分泌腫瘍の発表がほぼ均等な数の演題数であり、それぞれ活発な議論がなされました。示説会場では学生・コメディカル示説 11 題を別コーナーとし、通常の示説発表とは異なる発表の雰囲気を作ることができました (図 2)。

ランチョンセミナーは、アジレント・テクノロジー社、ジェンザイム・ジャパン社、ダコ・ジャパン社の 3 社との共催となり、それぞれ「次世代シークエンサを用いたがんの生殖細胞系ヒトゲノム・遺伝子解析の経験：その様々な側面」(国立がん研究センター研究所遺伝医学研究分野・吉田輝彦先生)、「オーファンドラッグに求められる開発戦略と留意点—製薬企業の視点から」(ジェンザイム・ジャパン社・小栗滋豊様)、「免疫組織化学染色によるリンチ症候群の検査法」(国立がん研究センター研究所分子病理分野・関根茂樹先生)による講演がありました。1 日目の夕方には武田薬品工業との共催イブニングセミナーとして「家族性前立腺癌のアップデート」(群馬大学大学院医学研



図 1 口演会場風景 (第 1 会場)。

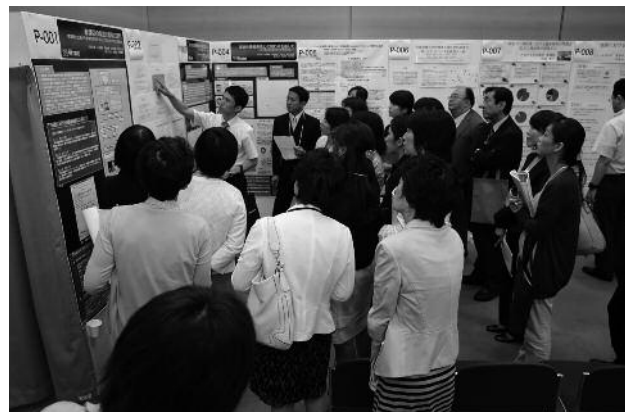


図 2 示説会場風景 (学生・コメディカル示説)。

究科泌尿器科学・鈴木和浩先生)の講演がありました。

2日目の学会終了直後、第1会場において市民公開講座を開催しました。第1部は、福島県立医科大学甲状腺内分泌学講座の鈴木真一先生から「福島原発事故による放射線被爆と小児甲状腺超音波検査の現状」の講演をいただき、第2部では多発性内分泌腫瘍症をとりあげるシンポジウムを開き、一般市民と患者様併せて約100名が参加されました。一方、市民公開講座と平行して第2会場では、昨年の学術集会に引き続き「遺伝子診療を考える会」を開催し、主に乳がんの遺伝子診療についてディスカッションがなされました。今回より「遺伝子診療を考える会」への参加は、家族性腫瘍コーディネーター・家族性腫瘍カウンセラー(FCC)の更新に必要な研修単位(5単位)を取得できるようになりました。

患者会からは、ハーモニー・ライン(家族性大腸ポリポージス患者と家族の会)、ほっとChain(VHL病患者の会)、むくろじの会(MEN患者と家族の会)の3団体がブースを出展され、参加者との交流が熱く交わされました(図3)。また次世代映像である4K(現行フルハイビジョンの4倍の高画質)による甲状腺手術映像を4K大型モニターで展示しました(図4)。4Kによる手術録画の展示は世界で初の試みでした。4Kの手術映像機材、再生機材の運搬の都合上、手術映像は学会前日に収録したものでした。

学会1日目終了後の懇親会は、NHK交響楽団第1コンサートマスターの篠崎史紀さんによるヴァイオリンコンサートで幕開けしました(図5)。乾杯の前に、本学術集会から新たに設けられた優秀演題賞の表彰がありました。今回の優秀演題賞は、示説発表の中から2題選ばれ、いずれ

もがん研有明病院遺伝子診療部の発表で、喜多瑞穂さんと瀧景子さんが受賞され、お二人の立派なスピーチが印象に残りました(図6)。懇親会では、地元の料理やワインでおもてなしを差し上げ、長崎放送アナウンサーの友成由紀さん、南淡路ロイヤルホテルソムリエの小川貞夫さん(図7)、ハウオリーズマサコアケタフラダンスチーム(図8)の皆さんに華を添えて頂きました。ちなみに懇親会の模様は、患者会ハーモニー・ラインのホームページ上でもご覧いただくことができます。

初日午後は予期せぬゲリラ雷雨にみまわれ、家族性大腸腫瘍のシンポジウムのご発表途中で会場が一時停電となる不測の事態が生じ、スライドが停止するハプニングがありました。幸い非常電源で復旧できたものの、ご発表者ならびにご参加の皆様にはたいへんど迷惑おかけいたしましたことを心よりお詫び申し上げます。

最後に、理事・評議員をはじめ多くの会員の皆様、遠路別府まで来られまして本学術集会にて司会の労をとって頂きました座長の皆様、ご発表されました演者の皆様には心より厚く御礼申し上げます。また学術集会運営に関わられました大分大学腎泌尿器外科ならびに野口病院のスタッフの皆様、寄付や協賛を頂きました各企業の皆様、本学術集会運営事務局のコンベンションリンケージ様にも御礼申し上げます。



図3 患者会ブース。



図5 ヴァイオリンコンサート風景。



図4 4K映像展示。



図6 優秀演題賞受賞者。
(右・喜多瑞穂さん、
左・瀧景子さん)

図7 シャンパンサーベル。



図8 フラダンスショー。

理事会・評議員会・総会報告

日本家族性腫瘍学会 2013 年度 第 1 回理事会議事録

日 時：2013 年 3 月 1 日（金）16:45～18:15

場 所：東京八重洲倶楽部 第 7 会議室

出席者：樋野、石川、石田、数間、菅野、鈴木、武田、
田村、富田、渡邊、藤田、松原（監事）
会員 DB 管理事務局・編集事務局：飛松

議 事：

報告事項：

1. 事務局報告（会員 DB 管理事務局：飛松）
事務局より 2012 年度事業報告、会費納入状況および新規入会状況について報告があった。
2. 各種委員会報告
 - ① 編集委員会
数間編集委員長より当日に開催された編集委員会について報告があった。
現在、3 本の投稿論文があり、査読中である。1 本は次号掲載を目指している。
 - ② FCC 制度委員会
菅野委員長より今年度 FCC へ 11 名の申請があったことが報告された。
 - ③ 将来検討委員会
報告事項はなし。
3. 第 16 回家族性腫瘍セミナー準備報告
田村実行委員長より、準備状況について報告があった。
8 月 23 日～25 日に近畿大学 東大阪キャンパスにて開催予定。
4. 第 20 回学術集会について、会長の鈴木理事より案内があった。
2015 年 6 月 20 日、21 日にコラッセふくしまにて開催予定。

審議事項：

1. 2012 年度決算・2013 年度収支予算案について
2012 年度決算・2013 年度収支予算案について学会事務局より説明があった。決算については、監査へ進め、次回の評議員会・総会に諮ることとした。
予算案のうち、増額が決定していた学術集会補助金について審議の結果、40 万円ということで、決定した。
また、現在、検討されている表彰制度での優秀演題賞副賞として 3 万円を予算計上しておくこととした。
2. 第 19 回学術集会時会議スケジュールについて確認し、開催順序・時間など変更希望があれば、メールにて連絡をすることとした。
3. 第 21 回（2015 年）学術集会会長候補について審議が行われ、審議の結果、2 名を理事会推薦者として決定し、まずは第 1 候補に打診することとした。
4. 新評議員推薦について
2 名の新評議員推薦があり、審議の結果、承認され、次回評議員会に諮ることとした。
5. 将来検討委員会からの審議事項

① 選挙制度について審議が行われ、下記が決定した。

- ・ 評議員はまずは現行どおりとするが、資格の見直しを含め今後検討していく。
 - ・ 制度として、選挙規則・細則を定め、2013 年 7 月の総会で承認を受け、2014 年 6 月に改選を行う。
 - ・ 改選にあたり、分野の偏りの問題ができることも懸念されることから、「職種のバランスをみて、指名理事を決めることができる」という一文を規則に含める方向で考える。
 - ・ 選挙管理委員長の鈴木理事を中心に、選挙制度 WG を立ち上げ、選挙規則・細則案を作成し、メーリングリストで煮詰めていくこととした。
- ② 表彰制度について審議が行われた。

- ・ 表彰制度検討委員長の武田理事より、表彰規定案が提示され、内容について審議を行った結果、まずは、7 月に開催される、第 19 回学術集会での演題から優秀演題賞を選定することとした。会長の内野先生に連絡をとり、進めていくこととした。
- ・ 選考委員は学術集会会長に一任し、理事会へ報告していただくこととする。
- ・ 学会から補助金をだし、学術集会会長に、その中で賞状・副賞など準備していただくこととした。
- ・ 上記内容や年齢制限の有無など含め、武田理事のほうで、表彰規定を再修正し、メーリングリストで煮詰めていくこととした。

日本家族性腫瘍学会 2013 年度 評議員会議事録

日 時：2013 年 7 月 25 日（木）18:00～18:50

場 所：別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ）
B1 小会議室 2 + 3

議 事：

評議員会に先立ち、第 19 回学術集会会長より挨拶があった。

報告事項：

1. 2012 年度事業報告および学会事務局報告
学会事務局より 2012 年度会員数の報告、事業報告があった。
2. 各種委員会報告
 - 1) 編集委員会
数間編集委員長より同日に開催された編集委員会に関する報告があった。
 - 2) FCC 制度委員会
菅野 FCC 制度委員長より報告があった。
 - 3) 将来検討委員会
富田将来検討委員長より報告があった。
 - 4) 第 20 回（2014 年）学術集会開催案内。

審議事項：

1. 2012 年度収支決算報告および会計監査報告について
学会事務局より 2012 年度収支決算報告が提出され、松原、藤田両監事により監査が行われた旨、報告された。
2. 2013 年度収支予算案について

- 2013年度収支予算案が提出され、承認された。
3. 第21回(2015年度)学術集会会長について
第21回(2015年度)学術集会会長について互選をおこない、埼玉医科大学総合医療センター 石田秀行先生の推薦があり、承認された。
4. 新評議員の推薦があり、承認された。
5. 役員選挙について将来検討委員長より説明があり、役員選挙実施について承認された。

日本家族性腫瘍学会 2013年度総会議事録

日 時：2013年7月26日(金) 13:00～13:30
場 所：別府国際コンベンションセンター(ピーコンプラザ) 3階 国際会議室
総会に先立ち、第19回学術集会会長より挨拶があった。
報告事項：

1. 事務局報告
2012年度事業報告
2. 各種委員会報告
①編集委員会
②FCC制度委員会
③将来検討委員会
3. 第20回(2014年)学術集会について
4. その他
審議事項：
1. 2012年度決算および会計監査
(学会事務局：石川理事)
2. 2013年度収支予算案(学会事務局：石川理事)
3. 第21回(2015年度)学術集会会長について
4. 新評議員の推薦について(樋野理事長)
5. 役員選挙について
6. その他

会計報告

会計担当理事：石川 秀樹(京都府立医科大学)

下記のように2012年度の決算報告が2013年3月会計監査を経た後、7月26日の理事会・評議員会で承認され、

2012年度収支決算報告書(2012年1月1日～12月31日)

〈収 入〉		〈支 出〉	
会費収入		編集事務局委託費	529,410
2009年度	10,000	会員業務委託費	370,905
2010年度	32,000	学会事務局運営費	212,300
2011年度	120,000	会誌発行(年2回)	954,450
2012年度	2,126,000	会議交通費	478,500
2013年度	1,468,000	通信費・送料・雑費	223,442
前受金	45,000	学術集会補助	200,000
その他(著作権料)	14,351	家族性腫瘍セミナー補助	200,000
学会誌販売	67,680	FCC制度委員会補助	1,525,000
論文別刷代	33,680	Homepage管理費用	10,500
広告掲載費	645,750	学会事務局人員派遣費	85,500
国立がん研究所より調査協力費	525,000	会議費(室料)	39,000
銀行利息	95		
当期収入合計	5,087,556	当期支出合計	4,829,007
前年度繰越金	2,712,219	次年度繰越金	2,970,768
合計	7,799,775		7,799,775

総会に報告された。また、あわせて下記の2013年度予算案が承認された。

2013年度収支予算書(2013年1月1日～12月31日)

〈収 入〉		〈支 出〉	
会費収入		編集事務局委託費	430,000
2011年度以前	100,000	会員業務委託費	400,000
2012年度	400,000	学会事務局運営費	200,000
2013年度	2,000,000	会誌発行(年2回)	1,000,000
前受金	400,000	会議交通費	500,000
その他の収入	10,000	通信費・送料・雑費	200,000
学会誌販売	50,000	学術集会補助	400,000
論文別刷代	50,000	家族性腫瘍セミナー補助	200,000
広告代	650,000	Homepage管理費	30,000
銀行利息	15	学会事務局人員派遣費	100,000
		表彰費	50,000
		会議費・その他	30,000
当期収入合計	3,660,015	当期支出合計	3,540,000
前年度繰越金	2,970,768	次年度繰越金	3,090,783
合計	6,630,783		6,630,783

Newsletter 掲載原稿の募集

日本家族性腫瘍学会 Newsletter では、会員からの記事原稿を募集しています。

国内・海外の関連学会・研究会の開催報告、参加しての印象記、関連集会の開催告知などをお寄せください。

字数 1000字程度(ご相談に応じます)

原稿のしめきり 発行月の2月前：1号(1月号)は11月中旬、2号(5月号)は3月中旬

セミナー報告・お知らせ

第16回家族性腫瘍セミナー報告

第16回家族性腫瘍セミナー準備・実行委員会委員長
田村 和朗 (近畿大学大学院総合理工学研究科遺伝医学)

第16回家族性腫瘍セミナーは2013年8月23日(金)～8月25日(日)の3日間、近畿大学本部キャンパス(大阪府東大阪市)において開催しました。今年のテーマは遺伝性大腸がん症候群で、特にリンチ症候群を中心にいたしました。準備・実行委員会は赤木究(埼玉県立がんセンター)、新井正美(がん研有明病院)、石川秀樹(京都府立医科大学)、川崎優子(兵庫県立大学)、小杉真司(京都大学)、菅野康吉(栃木県立がんセンター)、田中屋宏爾(岩国医療センター)、田村和朗(近畿大学)、富田尚裕(兵庫医科大学)、松原長秀(兵庫医科大学)、村上裕美(京都大学)、守井見奈(兵庫医科大学)、山内泰子(川崎医療福祉大学)の13名(敬称略)で組織し、2013年4月21日(日)の第1回準備委員会(大阪ガーデンパレスホテル)においてカリキュラム、アナウンス、受講者管理など、運営方針の骨子を決定し、FCC制度委員会事務局の指示を仰ぎながら以後準備を進めました。なお、カリキュラムはロールプレイ演習が到達点になるようデザインしました。

受講者は168名で当初予定の100名を大きく超過しました。受講者の本務地は岩手県から宮崎県まで広域にわたり、また年齢は20歳代から60歳代までと多様でありました。職種に関しては医師94名(56%)、看護師・保健師・助産師41名(24%)、認定遺伝カウンセラーおよび院生20名(12%)と例年の医師の受講者数が30%前後であったことと比較すれば、医師職の大幅な伸びが認められたと言えます。これは2013年度の臨床遺伝専門医認定試験(2013年10月実施)が暫定制度の最終年にあたり、その受験に備えた駆け込み受講者が増えたことが一因と分析しています。受け入れ予定人数を大きく超過したことで、ロールプレイ演習などの円滑な遂行が一時的に危ぶまれたこともありました。受講者が講義・演習に集中し取り組めるよう環境整備に腐心したつもりです。最終日の「ロールプレイ全体討論」において、本セミナー受講により達成感が得られたとの発言があった時、我々主催者は初めて安堵の気持ちを得ることができました。これは開催にあたり、近畿大学事務部の全面協力で、27室のロールプレイ会場が確保できたこと、また講師・ファシリテーター役を快く引き受けていただいた腫瘍および遺伝領域のエキスパートの皆様のご多大なるご尽力の賜物と考えています。末筆ではありますが本紙面をお借りし、関係各位に深く感謝の意を表します。

第17回家族性腫瘍セミナーのご案内

第17回家族性腫瘍セミナー実行委員長
田村 和朗 (近畿大学大学院総合理工学研究科遺伝医学)

第17回家族性腫瘍セミナーは遺伝性乳がん・卵巣がん

症候群(HBOC)を取り上げて開催します。腫瘍学、臨床遺伝学、分子遺伝学、臨床および遺伝学的検査、治療法、サーベイランス法、遺伝カウンセリングなど臨床現場で欠かせないエッセンスの講義と、ロール・プレイなどの演習を織り交ぜた密度の濃いセミナーを予定しております。また、本セミナーはがん医療および遺伝医療の向上を目指す医療従事者が職種を超え、意見交換を行うことのできる絶好の機会と考えております。日本家族性腫瘍学会は会員に対し、がんや家族性腫瘍に携わる医療従事者の自己研鑽と医療の向上を促進するため、2012年4月より家族性腫瘍コーディネーター・家族性腫瘍カウンセラー制度(FCC制度)をスタートさせております(日本家族性腫瘍学会ホームページ<http://jsft.umin.jp/>)。この称号を得るためには本セミナーを3回以上受講することが必須条件となっております。さらに本セミナー受講者は他学会などが認定する制度において、「臨床遺伝専門医制度8単位」「認定遺伝カウンセラー制度10単位」を取得することができます。また、「日本がん治療認定医機構」の認定医受験資格に必要な単位の内の3単位を取得できます。ただし、これらの単位取得はロール・プレイ演習まで参加された方に限らせていただきます。加えて、家族性腫瘍セミナー終了後、例年どおり第10回遺伝カウンセラー研修セミナー(近畿大学主催)を開催します。家族性腫瘍セミナー受講者の本セミナー参加費用は無料で、職種や資格は問いません。臨床遺伝専門職に必須のリスク計算やコミュニケーション法などの演習を中心に開講します。

記

日時：2014年8月22日(金)午前から24日(日)午前
会場：近畿大学・東大阪キャンパス

テーマ：遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)

定員：100名(予定)

費用：3万円

受講対象：医療・福祉に関わる職種の方、認定遺伝カウンセラー、遺伝や腫瘍に関係する研究者やこの領域に関わる企業関係者、遺伝医療を目指す学生

主なカリキュラム：遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)の診断、治療、臨床的および遺伝学的検査、サーベイランス法、遺伝カウンセリング学、ロール・プレイなど

受講申込み：

6月より受付予定(ホームページ、ポスターで案内予定)

主催：日本家族性腫瘍学会(<http://jsft.umin.jp/>)

セミナー実行委員長：田村和朗(近畿大学大学院総合理工学研究科遺伝医学)

問合せ先：

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1

近畿大学大学院総合理工学研究科遺伝医学

TEL: 06-4307-3438

FAX: 06-6723-2721

E-mail: tamura@life.kindai.ac.jp